



養育里親 Mさん家の場合

息子の友達が遊び にきたみたい

妻が子どもに関わる仕事をしていたこともあり里親について関心はありましたが、制度については漠然と「子どものためのものである」という認識しかありませんでした。里親になつていく知人がおり、話を聞く中で制度についての関心が高まり、自分で調べていくうちに、里親にも様々な種類があると知り、夫婦で話し合い養育里親に登録しました。

我が家の場合は施設で生活する子どもを週末に預かるショート・ルフランで中学生の子どもを迎え入れました。迎え入れる前は緊張しましたが、自分の子どもの年齢に近い子を希望したため、まるで息子の友達が遊びに来たようなひとときでした。みんなでボルダリングをしたり、家族でにぎやかな時間を過ごし、息子も楽しそうにしていました。今後自分ができる形で子どもたちのために里親を続けていきたいと思つていきます。



ショート・ルフラン
普段は施設で生活している子どもを、週末だけ預かる養育里親の一種です。

養子縁組里親 Nさん家の場合

里親は特別なこと じゃない

両親が里親をしており、里子とふれあう機会もあったため、私にとつて里親制度は身近であり、あまり特別なものとは感じていませんでした。結婚後、子どもができて悩んでいた時に、「里親」という選択肢もあるのではないかと思つようになりました。周りの後押しもあり、養子縁組を前提とした養子縁組里親になり子どもを迎え入れ、特別養子縁組を経て戸籍上でも一人の子どもの親となりました。初めての子育ては不安なことも多くありますが、家族や近所、学校、職場の人にも相談して手さぐりながらも楽しい毎日を送っています。

また、現在は養育里親として、中学生の子どもを1人迎え入れています。「子どもを育てることは、血縁は関係なく愛情を注ぐこと」だと思つています。だからこそ日々、子どもたちの成長していく姿を見ることができているのが嬉しくてたまりません。



親権について
里親制度では親権は生みの親にあり、特別養子縁組をすることにより親権が移譲され、戸籍上でも親になります。

児童相談所

家庭の温かさを子ども もたちに

県東部で社会的養護の下に暮らす子どもは約220人おり、その内の約3割が里親の下で暮らしています。全国的に見て高い傾向にあります。全国的に見て高い傾向にありますが、より多くの子どもたちが家庭的な環境で暮らすためには、多くの人に里親制度を正しく理解してもらうことが必要です。

私たち児童相談所では、養護が必要な子どもたちに家庭の温かさを届けることができるよう、1人でも多くの人に制度に携わって頂きたいと考えています。制度の周知や啓発のため、里親に興味がある人の相談会、里親希望者の手続きや里親委託後の児童福祉司・児童心理司などによる相談やケア等、里親、里子に関するどんな相談も受け付けていますので気軽にご相談下さい。

県東部児童相談所
02055・0200・20081



県東部児童相談所
担当 小松 千鶴子さん

里親会

悩みを相談し、助け あえる場所がある

沼津里親会には、現在約20組の里親が所属しています。

私たち里親は子どもを迎え入れて生活する中で様々な悩みを抱えています。里親会では、そんな悩みを共有し、時にはアドバイスをし、情報を交換する場を提供しています。みかん狩りや餅つきなど、みんなで行事を楽しんだり、会員の家で食事をしながら話をしたり、お互い親睦を深めています。会員同士の交流は、他の里親に数日の間子どもを預けるレスパイト・ケアという制度の活用にも役立っています。

里親といつても一人で里子を育てるのではなく、里親同士、学校などの協力や近所の人の理解が必要で、里親が地域の中で孤立しないよう、みなさんに里親制度を知ってもらい、里親・里子ともに支えてもらえたら嬉しいです。



沼津里親会 会長
高井 篤さん

里親についての相談会

里親と直接話してみたい、もっと詳しく制度について聞いてみたいなど、里親に関するどんな相談も受け付けています。気軽にお越し下さい。

とき 10月21日(出)、10時～14時
ところ 沼津っ子ふれあいセンター「ほっぼ」(沼津商連会館ビル4階)



子どもたちと一緒に遊んだり、ご飯を作っている里親家庭の様子

子どもたちの 未来のために

里親制度を文字や言葉で説明することはできませんが、里親、里子ともに抱える事情は様々であるため、家族の力やチの全てを紹介することは容易ではありません。しかし、思いがけない事情により、わが子が社会的養護を必要とする時を迎えるかもしれません。そんな時に里親制度がこうした子どもたちを救う手段の一つとしてあげられます。

「大変なこともあるけれど、家族の笑顔があつて幸せです」
今回の特集にご協力いただいた里親さんたちが口を揃えて教えてくれたこの言葉がとても印象的でした。そこには、家庭的な環境の中で密な関係を築くことによつて心でつながる確かな家族のカタチを見ることができました。

家族のカタチは、私たちが想像するよりもずっと多様です。まずは先入観を持たずに、里親制度について考え、それぞれに「里親」という家族のカタチがあることを知っていただきたいと思つています。皆さんの理解が広がることで、子どもたちが健やかに成長し、元氣な笑顔がもっと増えるのではないのでしょうか。